第２学年　国語科指導案

[redacted]

１　単元名　　きろくしよう

２　教材名　　「かんさつ名人になろう　（光村図書「たんぽぽ」２年上）

３　単元について

（１）　目標および教材について

第１学年及び第２学年の「Ｂ　書くこと」の指導目標は，「経験したことや想像したことなどについて，順序を整理し，簡単な構成を考えて文や文章を書く能力を身に付けさせるとともに，進んで書こうとする態度を育てる。」である。この目標に迫るために，経験したことや想像したことなどから書くことを決め，書こうとする題材に必要な事柄を集める力（Ｂ　ア）や文の中における主語と述語の関係に注意して書く力（伝国（１）イ（カ））を育成することが必要である。

教材「かんさつ名人になろう」は，ざりがにやかたつむり，ミニトマトなどを観察対象とした記録文が載っている。子どもたちにとって，身近な題材であることから，親しみやすく楽しみながら読んだり書いたりすることができる。また，観察するときの観点が挙げられていることと，それらが記録文の例（ざりがに等）の中で様々な形で用いられていることから，子どもたちは双方向的に学び取ることができるようになっている。このように，多様な観点で対象を見る力を育てるとともに，着眼点を絞る力を育てるために，観察文に題名を書かせていることも本教材の特徴である。１年生のときの「しらせたいな，見せたいな」（観察したことを記録する文章を書く）で培った力を基盤としつつ，本教材では，続けて記録することで「変化」にも気付けるように文例が配置されている。以下，文例ごとの特徴を挙げる。

ざりがに　　題「たまごをうんだよ」・・・・・形態
かたつむり　題「のびるのびる」・・・・・・・動き
ミニトマト　題「みが大きくなってきた」・・・変化

（２）　児童について

児童は、これまで一年生の「しらせたいな、見せたいな」の学習で、よく見るといくつかの観点が得られることを学習している。また、二年生では「今週のニュース」で知らせたいことを、学級のみんなに教える学習を経験している。自分の書いたものを掲示し、それについて他の児童から感想を書いてもらうことで書くことに喜びを感じている児童も多い。しかし、書くことについては個人差が多く、書く内容を決めることができずにいる児童や、書くことが決まっていてもそれを文章にすることに困難を感じている児童もいる。しかし、自分の書いた文や文章について友だちから感想を聞くと、どの児童もうれしいと感じている。そこで本単元では、書く目的やゴールを明確に決めることで、児童にはっきりとした相手意識や目的意識をもたせたい。

また、日頃から日記を書いたり、生活科の学習で、観察したり体験したりしたものの記録を残すなどの書く活動をしている。

（３）　指導にあたって

本単元では，『丁寧に観察し，気付いたことや分かったことを集める力』，『知らせたいことが相手に伝わるように書く力』『感想を伝え合い，よさを見つける力』をつけることを目指す。

本教材では，対象を見るときの観点が定着するように，文例から観点を見出したり，学んだ観点を用いながら自分で書いてみたりしていく。また，相手に伝わるように，主述を明確にするとよいことを文例から学び取っていく。また，友達の書いたものを読み，新しい知識を得たり，新たな観点を見出したり，表現の方法を学んだりしていく活動を取り入れていきたい。

４　単元の目標

関心・意欲・態度	書く能力	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
○身近なものに関心をもち，動きや様子を，よく伝わるように書くことができる。	○観察したことから書くことを決め，整理することができる。（１）ア ○観察記録文を書くことができる。　（１）イ ○書き方と書かれた内容について感想をもつことができる。（１）オ	○主語と述語を意識して書くことができる。（１）イ（カ）

5　評価規準

関心・意欲・態度	書く能力	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
・読み取った場面の様子や登場人物の心情を，読む速さ・声量などに変化をもたせて表現している。	・　観察したことから書くことを決め，整理している。 ・　事柄の順序に沿って，簡単な構成で観察記録文を書いている。 ・　書いたものを読み合い，よいところを見付けて感想を伝え合っている。	・　主語と述語を意識して書いている。

6　単元の指導計画と評価規準（全１２時間）

	時間	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準
つかむ	1	○学習の見通しをもつ。 ・　今まで書いた生活科記録文を，Ｐ３１観察の観点に基づき自己評価する。 ・　友達の発言を聞き，観点の豊富さに気付く。 ・「かんさつ名人になる」ことを単元の目標に設定し，共通確認をする。	・　すでに定着している観点を認めつつ，自分にはない観点で表現している作品についての感想をきく。そのことにより，自分にはない観点をもって観察記録文を書くことへの意識を高める。	関：観点を意識しながら，自分の記録文を読んだり，友達へコメントしたりしている。
	2	○単元の計画をたてる。 ・「かんさつ名人」になるためのどんな学習が必要か考える。	・　計画を立てることで，よりよい観察記録文を書くための手だてや見通しを明確にする。 ・　新出漢字や難語句を確かめる。 ・　作例をもとに書き方やポイントを意識していく。	関：単元の目標及び見通しをもつことができている。
ふかめる	3	○作例から学び取る（1）。 ・ざりがにの観察記録文から観点を見出す。	・既に学習している観点「いつ」「だれが」「～みたい（表現語彙）」などが使われていることを指摘させることで，既習の内容の定着を図る。 ・「どうした」「どんなふうに」「色」「だい」「かず」「天気」「日付け」などの新観点に気付かせ，４時・５時で定着を図るための礎とする。	読：すでに身に付いている観察の観点と比べながら，新たに観点を見出している。
	4	○作例から学び取る（2） ・かたつむりの観察記録文から観点を見出す。	・前時の観点を用いながら評価させ，定着を図る。（とくに「だい」について。） ・新たに「動き」「観察の仕方」「順序」「場所」「太さ」「～のように（表現語彙）」といった観点が設けられていることに気付かせる。	読：作例から観点を見出している。
	5	○作例から学び取る（3） ・ミニトマトの観察記録文から観点を見出す。	・前時の観点を用いながら評価させ，定着を図る。（とくに「順序」について） ・新たに「～ぐらい（表現語彙）」が用いられていることに気付かせる。また，記録文があえて２枚提示されていることの意味を考え「変化」という観点に気付かせる。	読：作例を読み比べ，変化の様子の書き方を見出している。

	6	○観察するものを決め，観察記録文を書く。	・観察の観点を確認し，意識をもたせて文章を書かせる。 ・くわしく書くために，「だい」を決めさせ，着眼点をしぼらせる。	書:着眼点を絞って書いている。 言:主語と述語を意識して書いている。
	7	○友達の書いた観察記録文のいいところ見つける観点を学習する。	・友達の観察記録文のいいところをみつける観点をＰ３５から見つける。	読:いいところを見つける着眼点を持つことができる。
	8 本時	○観察記録文を読み合い，よく観察できているところを見つけ書くことができる。	・既習の観点を再度確認してから，友達のいいところを書かせる。 ・友達の書いたものを聞き合い、比較することで、いいところを認め合い、さらに自分で書くときの参考にする。	書:観察の観点を意識しながら，友達のよさを認め，書き表している。
まとめる	9 １０	○観察の観点を見直し、観察記録文を書きなおす。	・よかったところを全体でも取り上げ，共有化を図る。 ・よさを認めることで成就感をもたせる。	書:自分の作品に足りないところを見つけ，書き直している。（推敲）
	１１	○観察記録文を書くときの観点をまとめる。	・「かんさつ名人になる」になるために学習したことを箇条書きでまとめ、今後の学習に役立てる。	書:簡潔に観察の観点をまとめている。

7　本時の指導

（1）目標

観察記録文を書くときに大切なことに注意しながら、友達のよさを見つけることができる。

（2）指導にあたって

「つかむ」の段階では、本時の学習課題を把握させるとともに前時想起をする。前時想起の際に、分かりやすい観察記録文のポイントをおさえることで、課題解決の見通しをもたせたい。

「ふかめる」の段階の一人学びでは友達の観察記録文のいいところ、そしてその理由を書かせることで価値の一般化をはかりたい。また、理由まで書くことができない児童については、グループ内の学び合いで友達の発言内容を書き込ませることで自信を持たせたい。

「まとめる」の段階では、友達の観察記録文を読むことで新たな発見を発言させ、いいところを見つけることは自分の文章を書く際にも生かされることを全員で確認し、学習の目的意識を再確認させたい。

（3）本時の展開

段階	学習活動	指導上の留意点	＊備考
つかむ ４分	1　本時の学習課題を確認する。 ともだちのいいところを見つけ、おしえあおう。 2　課題解決の見通しをもつ。	○前時までの学習で、いいところを見つける観点を想起し確認する。	研究内容（1）ア ・分かりやすい観察記録文のポイントを確認することで、友達の書いた観察記録文のどこに着目すればいいのかを明確にさせる。

ふかめる	3　友達の観察記録文のいいところをさがす。 ○一人学び ・友達の観察文のいいと思うところにサイドラインを引き、理由を書き込む。 ○学び合い（グループ） ・自分の書いたものを順番に発表する。 ○学び合い（一斉） ・友達の発表を聞いて新しい発見をしたところを発表する。 ・自分で書き直しをするときに参考にしたいところを発表する。	○観点をもとにいいところを見つけるよう声掛けをする。 ・題名、日付、曜日、天気 ・主語 ・様子（さわる、見る） ・観察の仕方 ・気がついたこと ・見つけたこと ○理由が書けない児童はサイドラインを引く。 ○見つけることができない児童には、友達の発表を聞き、納得できるところにサイドラインを引いたり、書き込みをさせていく。 ○友達からいいところを聞くことで、自信につなげ、さらにより良いものを書く活動につなげていく。	研究内容（1）イ ・分かりやすいと感じたところにサイドラインを引き、なぜ分かりやすかったのかを理由を書き込ませる。友達の書いた観察記録文の言葉を区切りながらじっくりと読ませることでいいところを見つけさせたい。 研究内容（2）ア ・話型を示すことでいいと感じた場所と理由を明確にさせたい。 ◆評価１ 友達のいいところを見つけている。（プリント） 研究内容（2）イ ・再度、観察記録文を書くときの参考になるところを確認させることで目的意識を持たせ、友達にいいところを伝え役に立つことで相手意識を持たせたい。
まとめる	4　本時のまとめをする。 ・いいところを見つけて教えてもらうとどんな気持ちがしたかを発表する。 5　振り返りをする。 6　次時の予告をする。	○次に書く時の意欲付けと、友達と意見を伝えあうことで自分の書く能力も高まっていることに気付かせる。 ○課題が達成できたか挙手で確認する。 ○次の時間は、もう一度観察記録文を書くことを確認する。	◆評価２ 次の時間につながるような発言をしている。（発言）

（4）評価

観点	評価	具体の評価規準		
		十分達成	概ね達成	努力を要する児童への手立て
書くこと	観察記録文を書くときに大切なことに注意しながら、友達のよさを見つけている。	友達のよさを見つけるとともに、さらに自分の観察記録文の加除訂正したいところを見つけている。	観察記録文を書くときに大切なことに注意しながら、友達のよさを見つけている。	友達の発表を聞き、いいところを見つけている。

板書計画

かんさつ名人になろう

ともだちのいいところを見つけ、おしえあおう。

いいところはっ見
①くわしくかんさつしているところ
②じぶんが気づかなかったところ
③上手に書いてあるところ

ともだちのいいところ
・おやゆびより大きいと書いてある。
・いろが書いてある。
・ていねいな字で書いてある。
・こいみどりいろということろが分かりやすい。

じぶんでなおしたいことろ
・つぼみのかずを書きたい。
・ていねいに書きたい。
・いろをくわしく書きたい。

ともだちのいいところをたくさんはっ見
←ヒントがたくさん
じぶんのかんさつきろく文もよくなる。

第２学年　国語科指導案

[redacted]

１　単元名　　きろくしよう

２　教材名　　「かんさつ名人になろう　（光村図書「たんぽぽ」２年上）

３　単元について

（１）　目標および教材について

第１学年及び第２学年の「Ｂ　書くこと」の指導目標は，「経験したことや想像したことなどについて，順序を整理し，簡単な構成を考えて文や文章を書く能力を身に付けさせるとともに，進んで書こうとする態度を育てる。」である。この目標に迫るために，経験したことや想像したことなどから書くことを決め，書こうとする題材に必要な事柄を集める力（Ｂ　ア）や文の中における主語と述語の関係に注意して書く力（伝国（１）イ（カ））を育成することが必要である。

教材「かんさつ名人になろう」は，ざりがにやかたつむり，ミニトマトなどを観察対象とした観察記録文が載っている。子どもたちにとって身近な題材であることから，親しみやすく，楽しみながら読んだり書いたりすることができる。また，観察するときの観点が挙げられていることと，それらが記録文の例（ざりがに等）の中で様々な形で用いられていることから，子どもたちは双方向的に学び取ることができるようになっている。加えて，着眼点を絞る力を育てるために，観察文に題名を書かせていることも本教材の特徴である。１年生のときの「しらせたいな，見せたいな」（観察したことを記録する文章を書く）で培った力を基盤としつつ，本教材では，継続して記録することで「変化」にも気付けるように文例が配置されている。

以下，文例ごとの特徴を挙げる。

ざりがに　　題「たまごをうんだよ」・・・・・形態
かたつむり　題「のびるのびる」・・・・・・・動き
ミニトマト　題「みが大きくなってきた」・・・変化

（２）　児童について

子どもたちは，１年生の「しらせたいな見せたいな」の学習において，目や耳，手，鼻などを使いながら，対象を観察することを学んでいる。また，生活科の学習においても，国語の学習と結びつけて，五感を生かして観察する姿が少しずつ見られるようになってきている。２年生になってからは，「今週のニュース」の学習おいて，ニュースの題材となりうる事柄を見出した。そうした積み重ねにより，少しずつではあるが対象を観る際の観点が増え，書く量が増えてきている。

しかしながら，子どもたちの実態にはばらつきが見られる。自分の考えなどを書く際，何を書いてよいか分からないとしている児童は５人，考えていることはあっても書き表せない児童が４人，思ったことや考えたことをだいたい表すことができているのが５人，比較的長い文章で自分の思いを表すことができている児童が８人いる。

また，生活科の学習において「詳しく書く」ことに挑戦し，様々な観点で対象を書き表すことはしてきているが，着眼点を一つに絞って「詳しく書く」という取り組みはあまり行っていない。加えて，観察の記録から主語を明確にして書き表す力が弱いことが分かった。

（３）　指導にあたって

本単元では，『丁寧に観察し，気付いたことや分かったことを集める力』，『知らせたいことが相手に伝わるように書く力』『感想を伝え合い，よさを見つける力』をつけることを目指す。

本教材では，対象を見るときの観点が定着するように，文例から観点を見出したり，学んだ観点を用いながら自分で書いてみたりしていく。また，相手に伝わるように，主述を明確にするとよいことを文例から学び取っていく。そういった過程を経たあと，友達の書いたものを相互に読み合い，新しい知識を得たり，新たな観点を見出したり，表現の方法を学んだりしていく活動を取り入れていきたい。

以上のことを単元計画のまとまりで見ていくと，次のようになる。第一次では，単元の見通しをもつ。第二次では，作例から観察記録文を書く際の観点を見出していく。そして，それらをもとに観察記録文を書いてみる。第３次では，書いた観察記録文を評価し合うとともに，観点を再度まとめ上げて終わる。

4　単元の目標

関心・意欲・態度	書く能力	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
○身近なものに関心をもち，動きや様子を，よく伝わるように書くことができる。	○観察したことから書くことを決め，整理することができる。（１）ア ○観察記録文を書くことができる。　（１）イ ○書き方と書かれた内容について感想をもつことができる。（１）オ	○主語と述語を意識して書くことができる。（１）イ（カ）

5　評価規準

関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
・身近なものに関心をもち，動きや様子を，よく伝わるように書こうとしている。	・　観察したことから書くことを決め，整理している。 ・　観察の観点をいかしながら，簡単な構成で観察記録文を書いている。 ・　書いたものを読み合い，よいところを見付けて感想を伝え合っている。	・　主語と述語を意識して書いている。

6　単元の指導計画と評価規準（全１１時間）

	時間	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準
つかむ	1	○学習の見通しをもつ。 ・　今まで書いた生活科記録文を，Ｐ３１観察の観点に基づき自己評価する。 ・　友達の発言を聞き，観点の豊富さに気付く。 ・「かんさつ名人になる」ことを単元の目標に設定し，共通確認をする。	・　すでに定着している観点を認めつつ，自分にはない観点で表現している作品についての感想をきく。そのことにより，自分にはない観点をもって観察記録文を書くことへの意識を高める。	関：観点を意識しながら，自分の記録文を読んだり，友達へコメントしたりしている。
	2	○単元の計画をたてる。	・　計画を立てることで，よりよい観察記録文を書くための手だてや見通しを明確にする。	関：単元の目標及び見通しをもつことができている。
ふかめる	3	○作例から学び取る（１） ・　ざりがにの観察記録文から観点を見出す。	・既に学習している観点「いつ」「だれが」「～みたい（表現語彙）」などが使われていることを指摘させることで，既習の内容の定着を図る。 ・「どうした」「どんなふうに」「色」「だい」「かず」「天気」「日付け」などの新観点に気付かせ，４時・５時で定着を図るための礎とする。	読：すでに身に付いている観察の観点と比べながら，新たに観点を見出している。
	4 本時	○作例から学び取る（２） ・　かたつむりの観察記録文から観点を見出す。	・前時の観点を用いながら評価させ，定着を図る。（とくに「だい」について。） ・新たに「動き」「観察の仕方」「順序」「場所」「太さ」「～のように（表現語彙）」といった観点が設けられていることに気付かせる。	読：作例を読み比べ新たな観点を見出している。
	5	○作例から学び取る（３） ・　ミニトマトの観察記録文から観点を見出す。	・前時の観点を用いながら評価させ，定着を図る。（とくに「順序」について） ・新たに「～ぐらい（表現語彙）」が用いられていることに気付かせる。また，記録文があえて２枚提示されていることの意味を考え「変化」という観点に気付かせる。	読：作例を読み比べ，変化の様子の書き方を見出している。

	6	○観察するものを決め，観察記録文を書く。	・観察の観点を確認し，意識をもたせて文章を書かせる。 ・くわしく書くために，「だい」を決めさせ，着眼点をしぼらせる。	書:着眼点を絞って書いている。 言:主語と述語を意識して書いている。
	7	○友達の書いた観察記録文のいいところを見つける観点を学習する。	・ 友達の観察記録文に対する評価・感想の書き方を３５ページから学び取る。	読:評価の仕方を理解している。
	8	○観察記録文を読み合い，よく観察できているところを見つけて書く。	・既習の観点を再度確認してから，コメントを書かせる。 ・適宜掲示を活用することで，掲示物を見る習慣をつけさせる。 ・抽象的な言葉と具体的な文章とを行き来させることで，具体的なイメージを伴った観点が身に付くようにする。	書:観察の観点を意識しながら，書いたものを読み合い，友達のよさを書き表している。
まとめる	9 ・ １０	○観察の観点を見直し，観察記録文を書き直す。	・よかったところを全体でも取り上げ，共有化を図る。 ・よさを認めることで成就感をもたせる。	書:自分の作品に足りないところを見つけ，書き直している。（推敲）
	１１	○観察記録文を書くときの観点をまとめる。	・ 「かんさつ名人」になるために学習したことを箇条書きでまとめ，今後の学習に役立てる。	書:簡潔に観察の観点をまとめている。

7　本時の授業

（1）　目標　観察記録文の作例を比べながら読み，書き方や書く際の観点についてまとめることができる。

（2）　指導について

①　課題解決に向けて見通しをもたせる

観察記録文を書く際の観点は，観察記録文のよさを読み取る際の観点でもあるということを，教師の姿を通して暗に示していく。（つかむ段階の備考参照）

どちらの作例が「よい文」かを比べるのが本時の課題となるが，「よい」というのは，とても曖昧な言葉であると考える。そのため，「よい文」とは「分かりやすい文」であることを一人学びの前に確認する。

②　一人学び

作例のよさを分析する。「全体的になんとなくよい」という段階から，「この言葉・文があるから分かりやすい。」という段階に移行するために，サイドラインを引かせる。さらに，「～だから分かりやすい。」と，理由や根拠を意識させるために，作例に書き込みをさせる。

③　学び合い

まず，「理由は書けないが，よい言葉を絞れた児童」を優先的に指名し，言葉を出させる（出し合い）。その後，理由について話し合い，深めていく（学び合い）。そうすることで，言葉しか見つけられなかった児童も，「なんとなくよいと思う言葉・文」が「～だからよい言葉・文なんだ。」と考えが深まると思われる。また，☆印，・印の観点で軽重をつけることで，授業に変化をもたせていく。・印の観点については，他の時間で繰り返し取り扱っていくことで定着を図る。

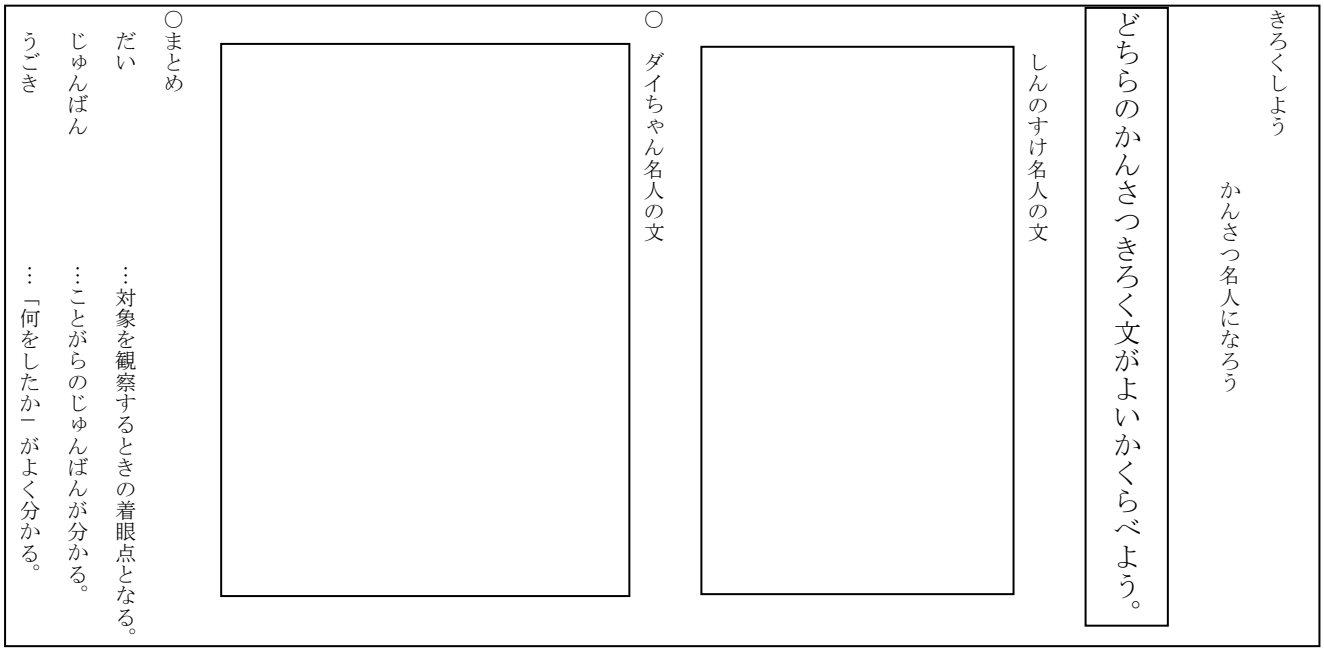
④　振り返り

記録文を書く観点について全員で振り返り，これらをいかして観察記録文を書くということを確かめ合う。（単元のゴールを意識させる。）また，自分の学びを簡単に振り返らせ，定着や理解の度合いを見る。△をつけた児童には，授業後必ずその理由を聞き，フォローしていく。

（３） 展開

段階	学習活動	・指導上の留意点	※備考
つかむ 5分	1　前時想起をする。 2　学習課題を把握する。 3　課題解決の見通しをもつ。	○　教師がかんさつ名人と称して作例を出したのち，教科書の作例と比べさせる。 ○　教師の作例のよいところについて**<u>掲示を振り返らせながら教師から提示</u>**し，よさをアピールする。 ○　どちらがすぐれていると思うか，決をとる。 どちらのかんさつきろく文がよいかくらべよう。 ○　既習の観察の観点を振り返らせる。 ◇　二つの作例の違いに目を向けるように言葉をかける。	・掲示を使い，教師が自分の作例のよさについて主張することで，自然と前時までの学習内容を想起させる。同時に，観察記録文を読み取る際の観点になることも意識させる。 研究内容（1）ア ・「よい」とは分かりやすいことを指すということを確認する
ふかめる 三十分	4　学習場面を音読する。 5　どちらの観察記録文がよいか考える。 ○一人学び ・　よいところに印をつける。 ・　よいと思った理由を書き込む。 ○学び合い ・　よいと考えたところを挙げる。 ・　よいと思った理由について<u>相手</u>を納得させられるように話す。	○　観点を意識しながら，読むように声をかける。 ○　よいと感じた語や文に**<u>サイドライン</u>**を引くように指示を出す。 ○　よいと思った**<u>理由</u>**を具体的にノートに書き込ませる。 ☆　題…何が書いてあるかすぐ分かる。 ☆　動き…「どうした」がよく分かる。 ・　６月８日（水）雨…日付・曜日・天気が分かる。 ・　かたつむり…主語があって何のことかすぐ分かる。 ・　じっと見ました…どんなふうに観察したのか分かる。 ☆　まず・つぎに…順番が分かる。 ・　５ｃｍ…大きさが詳しく分かる。 ・　細くのびました…太さが分かる。 ・　しっぽのように…しっぽみたいだと分かる。 ○　学び合いでは，よいと感じた箇所を挙げさせ，その理由を考えさせていく。主に☆印の観点について話し合わせる。	・感覚的な捉えを支えているものを明確にしていく。よいと具体的に感じる言葉や文を絞っていく。 研究内容（1）イ ◆評価１ 自分なりの観点を見出している。（ノート） ・ 研究内容（2）イ
まとめる 10分	7　本時の学習のまとめをする。 きょうか書の文のほうがよい。 →そのわけをノートにまとめる。 8　ふりかえりをする。 9　次時の学習の見通しをもつ。	○よさを簡単な言葉でまとめさせ，ノートに書き残す。（☆印を主として書き残す。） ☆だい（を書く。） ☆うごき（をくわしく書く。） ☆じゅんばん（がわかるように書く。） ・どんなふうにかんさつしたか（書く。） ・ふとさ ・ばしょ ・「～のように」（をつかうとわかりやすい。） ○よい理由が分かったかどうかふりかえらせる。 ◎…よく分かった。○…だいたい分かった。 △…あまり分からなかった。 ○次の時間は，ミニトマトについての観察記録文について読んでいくことを示す。	◆評価２ 観点を理解してノートにまとめている。次時以降，それらの観点を意識して書いている。

（4）評価

	評価	具体の評価規準		
		十分達成	概ね満足	努力を要する児童への手立て
	観察記録文の作例を比べながら読み，書き方や書く際の観点についてまとめている。	様々な観察の観点，及びそのよさや意味を捉え，自分なりの言葉でまとめている。	様々な観察の観点，及びそのよさや意味を捉えている。	・一人学びにおいて，比較する二つの文章が比べやすいように横並びに配置して示し，詳しく表記されている箇所を探すように促す。

8　板書計画